

瓊林会の本・追補篇一創立110年以降、母校に集まった本(その1)

(2019/1/20)

| 番号 | 資料表題 | 著者・編纂者 | 判Size | 頁数 | 刊行年 | 収録内容のポイント | 本資料の特質と評価 | 出版(発行)社 | 備考 |
|----|---|-------------|-------|------|--------|--|---|---------|----|
| 1A | 「長崎大学経済学部創立110周年記念誌」 | 記念事業実行委員会 | 雑誌 | P183 | H27/12 | 開校110周年記念する総合誌。母校の歩み・歴史年表・特別寄稿・答申書・教員一覧表など。 | 70年誌以降に編纂された本格的な総合誌。母校答申書・公益法人化・各世代草稿(戦役・原爆・戦後)・長崎観光を網羅する見事な内容。 | 瓊林会 | |
| 1B | 「被爆・終戦70年の回顧」 | 公益社団法人瓊林会 | 書籍 | P203 | H27/12 | 被爆と戦後70年を回顧する会有志による寄稿文集。110年記念誌は本書より4篇を再録した。 | 「原子雲の青春」(H7/6瓊林会刊)を継ぐ再びの被爆体験記と旧制中学・少国民31件の回顧録。「S20/4入学希有なる体験」「戦中後を生抜いて」 | 瓊林会 | |
| 1C | 「二次元過ぎる祖父の話・一家団欒編」 | 丹堂エンヂ | 書籍 | P112 | H29/7 | 当世大人気女性作家が、謹厳実直だった父方の祖父(1937年卒・30回)を描いたコミック。 | ダンディでおぼっちゃま育ち、エリート経理マン、徴兵検査不適合だが、老人施設に入っても、眠つぶしに大学受験問題を解く。 | (株)リプレ | |
| 1D | 「五島を通った遣唐使」 | 櫻井隆(学17) | 書籍 | P383 | S30/3 | 永年故里-五島三井楽を拠点とする遣唐使史を考究する著者が、再び世に問う研究書。 | 律令国家は8-9世紀に五島を経由し16度-38隻の遣唐使船を往復させた。その知られざる事実と古代への憧憬を語る。 | 櫻井隆 | |
| 1E | 「スポーツ マネジメント入門(第2版)」 | 西崎信男 | 書籍 | P303 | H29/8 | プロスポーツ(英サッカー・米野球)を経営・財務・マーケット・ガバナンス面から説く入門書 | 商品であるサービスは製造業のモノと全く異質。経営資源(ヒト・モノ・カネ)を如何にマネッジするのか。著者の長崎大学院論文を基礎に紹介。 | 税務経理協会 | |
| 1F | 「金剛杖一四国遍路記」 | 阿部清澄(学9) | 書籍 | P96 | H27/8 | (学9回)である著者が仕事を辞めた後(歩き遍路)による5度の四国遍路記。人の縁に感銘。 | 「発心のみち阿波国」「修業のみち土佐国高知」「菩薩のみち伊豫国愛媛」「涅槃のみち讃岐国香川」。結願お礼に高野山へ。H24/9-H26/10。 | 阿部清澄 | |
| 1G | 句集「坂の町 ながさき」 | 吉本正明(学11) | 句集 | P46 | H30/8 | 永年「瓊林」誌「文芸広場」の常連であった著者が、娘さん夫妻の援助で二百句を披露された。 | 「早春や煙雨の中の眼鏡橋」「時の日や母の残せし古時計」「花見れることが幸せ喜寿迎ふ」「余生とは何を言ふのか落ち葉踏む」など。 | 吉本正明 | |
| 1H | 「雲のフェルマータ」 江頭洋子歌集 | 江頭洋子 | 歌集 | P207 | H23/9 | 神武・岩戸景気頃のコーラスで我々の歌姫だった長崎を代表する女流歌人の第一歌集。 | 「稲佐山にたなびく雲のフェルマータ明日へつながる憧れのごと」「平坦な道を物足りぬと思ふまで住み慣れし坂の長崎が好き」…。 | 角川書店 | |
| 1I | 「出雲の民窯 出西窯」 民芸の師父たちに導かれて六十五年 | 多々良弘光(経専42) | 書籍 | p187 | H25/2 | 長崎経専(42回)卒の著者は島根県を代表する窯元の陶師へ。河合栄次郎的な人格成長・唯心論的な共同体建立・実践活動を母校で学ぶ | 徳永新太郎・河合寛次郎・柳宗悦・濱田庄司・外村吉之介・鈴木繁雄らに教えられた「用の美」を築きあげた島根・出西窯の成功譚。 | ダイヤモンド社 | |
| 1J | 「長崎行役日記」 | 長久保片雲 | 書籍 | p275 | H6/11 | 明和4(1792)年、常陸国の漢学者で庄屋の長久保赤水が、安南国へ流され長崎に帰着した漁師を引取りに長崎を往復した旅日記。 | 原著(写真版)・書下ろし文・現代語訳文の3部構成、長崎通事・清国知識人への自己紹介文・漁師の聞き書き「安南国漂流物語」などを併載。 | 筑波書林 | |
| 註 | 上表は表面の「瓊林会の本」の書影の概要を一覧表示したものである。「番号」は表の書影番号と一致する。 | | | | | | | | |

瓊林会の本・追補篇一創立110年以降、母校に集まった本(その2)

(2019/1/20)

| 番号 | 資料表題 | 著者・編纂者 | 種類 (番号) | 頁数 | 刊行年 | 本書・雑誌の掲載内容・ポイント | 本資料の特質と評価 | 出版(発行)社 | 備考 |
|----|---|------------|------------|--------|---------|--|---|-----------------|-------------|
| 1k | 「瓊林句集 第4集」 | 瓊林俳句会 | 句集 | P182 | H25/5 | 森澄雄門下の伝統を誇る瓊林俳句会、菊地一雄師のもとに13名が寄稿した第4次俳句集。 | 「金星耿耿地球のわれに初便り」「芭蕉翁泊まりし宿の余花にあり」「足るを知る余生に慣れし桐一葉」「唐寺や澄雄の句碑に淑気満つ」…。 | 瓊林句会 | |
| 1L | 「長崎高商創立10周年記念講演 論文集」 | 長崎高商同窓会 | 書籍 | p333 | T4/12 | 母校の所在地が未だ長崎市郊外の西彼杵郡上長崎村であった大正初期、同窓会は開学10周年記念に4つの講演と10篇の論文を編集した。 | 講演内容は四書五経の「支那経済説の研究」、本学への期待「現代と商業」「学校と社会」、長崎控訴院長・手塚太郎氏の「飲酒と犯罪」など。 | 高商同窓会 | 東京支部 受入本 |
| 1M | 35回生「卒業30周年記念文集」 「高商入学40周年記念名簿」 | 珊瑚会(高商35) | 書籍 | P35/80 | S47/S54 | 昭和16年12月、繰上卒業になった35回生の記念文集と入学40年目の記念名簿。卒業アルバムもなく、40年後の生存者は3割79名。 | 昭和15年、臣道実践を旨に学友会は報国隊に改組、自彊寮の消火に活躍。第8代高田休廣校長は卒業式演壇で名演説の後、昏倒客死さる。 | 珊瑚会 | 東京支部 受入本 |
| 1N | 「長崎高商と私」 | 車田基安(高商14) | 書籍 | P206 | S42/6 | 同窓誌「暁風」編集者の子息が父の原稿を小冊子に纏めた。挿話は軽妙で幅広く、変転に富む、器用貧乏(Rollingstone)氏の回顧談。 | (長崎高商に入るまで)(底なし倶楽部の友と恩師)(留学生遊び)(活動写真館)(こんな経歴の男もいる)(仇名一代)(出雲の教え子たち)…。 | 共同出版社 | 東京支部 受入本 |
| 1O | 「わが思い出の長崎高商」 | 平湯晃(高商32) | 書籍 | P53 | H13/9 | 「細川幽齋伝」「利休と三人の弟子」の著者が高商時代の輝しくも純粋な思い出を回顧した。卒業までは「壺中の天」であった長崎。 | (紺屋町仕舞屋の下宿)(おくんち)(珠ちゃん)(ランバック神父・本田・伊東・伊藤・武藤先生)(同人誌「十四世紀」)(「経済学の領域と方法」)…。 | 胡蝶の会 | 東京支部 受入本 |
| 1P | 「明治草創期の簿記教科書」について | 福澤諭吉 訳 他 | 書籍 | — | M6-19 | 瓊林会館2F資料庫の書棚裏から見つけた紙魚に蚕食された明治初期の和装本9冊。此処に持ち込まれた経緯・由来は不詳のだが、 | 「帳合の法・初篇一」「巻之二一四」(M6/6)・「馬耳蘇式簿記法」(M8/3)・「銀行簿記例題集」(M12/4)・「簿記学独習・商業之部」(M19)など。 | 慶応義塾 出版局他 | 和装本 9冊 |
| 1Q | 「新選洋学年表」 | 大槻如電 | 書籍 | P158 | S2/1 | 天文元(1532)年のザビエル来日から、明治10年(1877)西南戦争/東大創立までの345年間の諸外国との交流を書留めた仙台藩漢学和装本。 | 元亀元(1570)年、葡萄船一隻肥前深江に来る。其良湾なるを見て来年を約して去る。地頭長崎甚左衛門純籟市街を建設…長崎港是也。 | 大槻茂雄 | 和装本 |
| 1R | 「神保町の燈り—徳山宣也遺稿拾遺」 | 徳山宣也(学5) | 書籍 | P155 | H28/6 | 瓊林友之会の幹部であった著者は母校110年祭を前に急逝。ライター仲間の同人誌に収録された著者の遺稿を拾遺し、僚友を回顧した。 | 「社史失墜・拾ってこれを自費出版するの記」「私の愛した書物」「昭和二十年夏」の3篇を収録、末尾に同僚山田道弘兄の追悼文を加えた。 | 荒川和敏 (編集・制作) | 自製本 |
| 1S | 西陵の記憶 | 鳥越次夫・池田一彦他 | 書籍 | P60 | H28/8 | 高商先輩諸兄より編集子に贈られた既刊の小冊子を4冊程集め、これに「少年たちの戦争」、高木先輩書信などを加え再録した。 | 「我が学生時代」(鳥越次夫)・「雲流るる果てに」(池田一彦)・「甕りの人生余録」(片岡勇)・「少年たちの戦争」(徳永徹)・高木昌章先輩書信。 | 荒川和敏 (編集・制作) | 自製本 |
| 1T | 利休と三人の弟子 | 平湯晃(高商32) | 書籍 | P245 | H24/5 | 著者は13年の精魂をかけた完成稿を前に急逝去。瓊林会東京支部は夫人を援けA4判254頁の膨大な作品を自費出版した「利休物語」。 | 三人の弟子—高山右近・古田織部・細川三斎の動き。九州平定後、朝鮮出兵に向かう秀吉。茶道の侘びの精神とは何か。利休死罪の真因は | 瓊林会 東京支部 | |
| 註 | 上表は表面の「瓊林会の本」の書影の概要を一覧表示したものである。「番号」は表の書影番号と一致する。 | | | | | | | | |